



●令和8年度南丹美術工芸パートナーズクール事業●

南丹教育局では、小学生が高校生の助言を受けて作品を制作することを通して、美術工芸への興味・関心を高める「南丹美術工芸パートナーズクール事業」を実施しています。

小学生は身近な先輩からアドバイスを受けることで自分の将来に対する希望や関心を持ち、また、高校生は小学生への助言を通して日々の学習に対する自信や誇りを高めるなど、校種を越えた連携を通して、「つながる学び」に取り組んでいます。

亀岡市立大井小学校 & 亀岡高等学校



亀岡市立大井小学校3年生68名が、6月4日・22日に亀岡高校普通科美術・工芸専攻1年生26名から助言を受けて、作品を制作しました。

「トントン どんどん くぎうって」の学習を通して、木材の特徴を生かした作品を制作しました。その後、お互いに鑑賞し交流しました。

両日とも最初に高校生が事前に制作した作品を示し、くぎ打ちの際の注意点等を伝えた後、小学生は制作に取り組みました。



《1日目》

くぎを一定の間隔で打ち並べたり、打ち方の強弱を変えたりしながら、児童一人ひとりが自由に制作に取り組みました。まっすぐに打ちそろえて模様にしたり、くぎの高さや配置に変化をつけてリズム感のある作品にしたりするなど、それぞれが工夫を凝らしながら創作活動に夢中になって取り組む姿が見られました。

高校生は、悩んでいる小学生や道具の使い方がわからない小学生に対して、自分の持っている知識や経験を活かし、熱心にアドバイスをしていました。



《2日目》

くぎを打つ強さを調整することでくぎの見え方が変わることに気づいたり、配置によって印象が変化することを実感したりするなど、素材や道具の特性を体感しながら活動している様子が見られました。

高校生は、小学生に「上手だね！」「次はどこに釘を打つ？」などたくさんコミュニケーションを取りながら小学生と一緒に作品に向き合っていました。



今回、小学生は金槌で木材にくぎを打って作品を制作することの楽しさと難しさを学び、高校生は教えることの楽しさと小学生の悩みに寄り添うことの難しさを学び、お互いに得ることが多い2日間となりました。

完成した作品の一部は、「第20回京都丹波美術工芸教育展」(10月24日・25日開催)で会場展示を行います。

南丹教育局では、南丹地域の市町教育委員会や幼稚園・小学校・中学校・義務教育学校の取組を支援するとともに、地域ならではの教育振興に取り組んでいます。

ぜひ、ホームページをご覧ください！！

南丹教育局ホームページ

<http://www.kyoto-be.ne.jp/nantan-k/cms/>

南丹教育局

